

授業改善

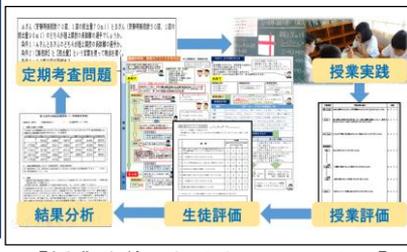
【本校が3年間で目指した授業】
交流活動を通して、根拠を明確に自分の考えをかくことができる授業

このような取組が効果的だった！

＜取組1＞「授業のグランドデザイン」に沿った授業実践

○ 授業改善の視点を明確にした授業モデル「授業のグランドデザイン」を作成し、それを活用して、全教科で日常の授業改善に取り組んだ。

(成果)
平成31年度全国学力・学習状況調査の結果、記述式の標準化得点において国語科が80、数学科が70となり、前年度に比べ、上昇が見られた。



＜取組2＞思考力・表現力を高める定期考査問題の作成と結果の検証

○ 全教科で思考力・表現力を問う問題を定期考査に出題し、これらの問題を解くことができるように日常の授業改善に取り組む、全職員で検証を行った。

(成果)
年間3回の授業改善のPDCAサイクル(定期考査問題作成→授業実践→公開授業での授業評価→生徒評価→定期考査の結果分析→定期考査問題作成)を機能させることで教師の授業力と生徒の学力の向上につながっている。

【考察】質的向上につながった本校の授業改善について

- 全国学力・学習状況調査や福岡県学力調査等の結果分析から生徒実態を全職員で共有したことで、授業改善の視点を明らかにすることができた。
- 生徒実態から授業改善の視点を明確にした授業モデルである「授業のグランドデザイン」を作成、活用したことで授業改善の日常化を図ることができた。
- 思考力・表現力を高める問題を全教科で定期考査に取り入れることで、授業改善のPDCAサイクル(事前の問題の作成→授業実践→授業評価→生徒評価→結果分析)を効果的に機能させることができた。

マネジメント

【本校が3年間で確立したマネジメント】
効果のある検証改善サイクルによる学力の向上を目指したカリキュラム・マネジメント

このような取組が効果的だった！

＜取組1＞教科の年間指導計画の作成 (カリキュラム・マネジメント)

○ ゴール像を明確にして、その達成に必要な力をつけさせるための授業のグランドデザインを反映した授業を位置付けた単元計画の作成をした。(成果)
生徒に身に付けさせたい力を共通認識するとともに、全教科で単元構成の工夫などを意識したカリキュラムの作成をすることができた。

【各教科の年間指導計画の一部】

＜取組2＞ミドルリーダーを中心とした役割の明確化 (組織マネジメント)

○ 学力検証会議が実効性のあるものとするために、検証改善サイクルに係る年間計画とロードマップを作成して、担当職員の役割を明確にし、効果的になるようにした。(成果)
「学力検証会議が、教育活動に生かせるものになっているか。」という項目に対し、全職員が肯定的な回答をしていた。

【検証改善サイクル年間計画】

＜取組3＞検証改善サイクルの確立

○ C(評価)段階を重視した検証改善サイクルを年3回位置付け、生徒・職員アンケート等から明らかになった成果と課題を基に、学力検証会議において全職員で改善策を考え、さらにその後の方策について共有した。(成果)
生徒・職員アンケートの質問項目をそらえたことで、双方の捉え方のズレや生徒の声を基に、取組を振り返り、授業改善を進めることができた。

【生徒・職員アンケート】

【考察】効果につながった本校のマネジメントについて

- 全国学力・学習状況調査等を基に、生徒に身に付けさせたい力を全職員で共有し、全教科で授業改善に取り組む視点を共通理解することで、授業のグランドデザインを反映した授業を位置付けた年間指導計画を作成することができた。
- 学力向上を図る検証改善サイクルの年間計画を作成して、各取組の時期と内容を示すことで、担当業務の内容が明確になるとともに、職員が見通しをもって取り組むことができた。
- アンケートや思考力・表現力を問う定期考査の結果分析をCA段階に位置付け、全職員で協議することで、成果と課題及び改善の方向性と意義を共通理解することができた。